

第2次南砺市公共施設再編計画に関するパブリックコメントにおけるご意見と市の考え方（回答）

平成28年2月9日から2月22日まで実施した「第2次南砺市公共施設再編計画」へのパブリックコメントにおいて、期間中に3件のご意見をいただきました。ご意見と市の考え方は次のとおりです。

No.	市民の意見	市の考え方（回答）
1	<p>文化施設や図書館、博物館、スポーツ施設等について、計画の実効性を保つために「短期5年間に利用者が3割減となった場合は計画よりも前倒し」等をすると言われてはいますが、その判断を単に“利用者の3割減”のみとするのは、いささか乱暴ではないかと感じます。</p> <p>文化施設等の公共施設は、公平・公正な立場で事業を提供し、それにより市民の満足や幸福を感じていただくことが目的であり役割だと思います。単に利用者数だけでなく、それぞれの“施設の特徴”やその事業の“質”、“発信力”、“企画力”なども判断材料に入れるべきと考えます。</p>	<p>“施設の特徴”“事業の質”“発信力”“企画力”等は、いずれも施設の魅力であって、利用者を増やす重要な要素です。</p> <p>これらを生かして、各施設がそれぞれに集客に努め、それでも利用者数が3割減となる場合があった場合には、魅力がない施設と判断せざるを得ないと考えています。</p> <p>人口は、30年間で約4割減少すると見込まれています。人口の減少割合と比べても、短期5年間に利用者数が3割も減となることは、よほど魅力がなく、市民に利用されない施設であると言えることから、再編を考えていきます。</p>
2	<p>その他の文化施設は現在「利賀芸術公園」のみですが、再編の考え方として「世界に向けて芸術文化を発信する特徴ある施設」とされ、「短期5年間に利用者が3割減となった場合、統合を検討」とあります。</p> <p>世界に向けて芸術文化を発信する施設は利賀芸術公園のほかに、福野文化創造センター（スキヤキ）や井波総合文化センター（木彫刻キャンプ）も該当すると思われませんが、それらの施設が「世界に向けて芸術文化を発信する特徴ある施設」とされていないのはなぜか。</p>	<p>利賀芸術公園は、平成27年2月に策定した利賀国際芸術村構想における拠点施設として位置付けられており、施設は維持する方向としております。</p> <p>スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールドや木彫刻キャンプ等のイベントも世界に向けて芸術文化を発信する貴重なものと認識しておりますが、それらは施設に依存するものではなく、その取り組み自体に価値があり認められているものと考えています。</p>
3	<p>利賀芸術公園のなかに耐用年数をはるかに超えた施設（到来年度1995年）もありますが、「統合を検討」のみで再編時期が計画に明記されていないのはなぜか。</p>	<p>合掌造り家屋等に代表されるように、耐用年数が到来した施設であっても十分使用できる施設や、その価値から解体できない施設が多くあります。耐用年数を一つの目安にしながらも、利用状況、維持管理経費等から、再編時期を総合的に決定しています。</p> <p>利賀芸術公園は、利賀国際芸術村構想に位置付けられた施設であることを念頭にしながらも、利用者が3割減となった場合には、統合を検討していく必要があると考えています。</p>